



6. ဂျပန်အမျိုးသား အခြံနေ ရှင်သာမဏေ ရှင်မေမာနန္ဒ အား  
မြင့်မြတ်သော ဂုဏ်အဖြစ်သို့ မြှင့်တင်ခြင်း

ဥပသမ္ပဒ မင်္ဂလာ နှင့်  
အလှူတော် မင်္ဂလာ

4 November 2017

ケサラ大長老をはじめ10名のミャンマー比丘サンガご来庵  
～比丘サンガ40日間のご活動(14の儀式)～ 第6回



日本上座仏教修道会



6. H.E.U Khin Maung Tin 大臣  
Kyaw Zin Tun 様

仮比丘出家儀式

仏暦 2561 年 平成 29 年  
11 月 4 日 (土)

◎H.E.U Khin Maung Tin 大臣 ごあいさつ



2017年11月4日(土)午前11時、浄心庵シーマー(戒壇)において、ミャンマー国家顧問省副大臣 H.E.U Khin Maung Tin 閣下より、ご自身の仮比丘出家儀式的前に、大長老をはじめ、上座仏教修道会の皆さんと関係者の皆さまの前に感謝のお言葉をいただきました。H.E.U Khin Maung Tin 閣下とご夫人の Daw Aye Aye Nyein 様、ご子息の Kyaw Zin Tun 様ご家族は、浄心庵シーマー(戒壇)・仏塔建立のために大きな功德を申し出られた第一人者であります。

この日、ご家族は、比丘サンガをはじめ、参加者全員、約70名分の朝食、昼食のご供養をお布施されました。



H. E. U Khin Maung Tin 大臣による  
感謝のおことば

この度は、シーマー(戒壇)認定儀式を成功裡に完遂したこの浄心庵シーマー(戒壇)の中で、私たちの仮比丘出家儀式を行うために準備し、応援して下さった、セヤードーをはじめ、上座仏教修道会の皆さまに、心より感謝申し上げます。日本の中で、このような儀式を行うことは、とても難しく、得難いことと存じます。

今回、私は、浄心庵シーマー(戒壇)認定儀式のために、お布施をさせていただきました。今まで、ミャンマー国の中で、多くの寺院などに布施をさせていただきましたが、私の人生において、はじめて、最も大きな特別な布施を、この日本の浄心庵シーマー(戒壇)・仏塔建立のために、布施する機会をいただき、私たち家族にとって最上の喜びを体験する機会となりました。

日本では、2011年～2015年までの約5年間、駐日ミャンマー連邦共和国特命全権大使として務めて参りました。その時から、大長老のお寺である浄心庵や、新宿本部へしばしば参拝し、大長老に、教え戒めを賜わり、日本上座仏教修道会の皆さまにも大変お世話になりました。

日本に純粋なお釈迦さまの教えを伝えておられる大長老のお姿を拝見して、大長老の並々ならぬご努力とご苦勞は誠に計り知れません。

私たち家族は、日本にご縁があり、そして大長老と御会に出会いました。その日本の地において、お釈迦さまの教えが伝わるための浄心庵シーマー(戒壇)へお布施ができたことは、私たち家族にとって、かけがえのない大きな財産となりました。

三宝と、大長老へのこれまでの徳とご恩を念じ、日本上座仏教修道会の皆さまへの感謝と共に、これからも、ミャンマーからできるだけ、お釈迦さまの教えが伝わるために日本上座仏教修道会、浄心庵シーマー(戒壇)・仏塔建立のために応援いたします。

これを機に、ミャンマーと日本の友好関係が栄え、更に両国が発展しますよう、お祈りしながら、感謝の意を表してご挨拶とさせていただきます。

Sādhu Sādhu Sādhu

◎H.E.U Khin Maung Tin 大臣  
Kyaw Zin Tun 様 「仮比丘出家儀式」



午後2時、新浄心庵戒壇 Sāsana Sirī Dhara Sīmā（お釈迦さまの教えが伝わるために品位を保つ浄心庵戒壇）において、ミャンマー国家顧問省副大臣 H.E.U Khin Maung Tin 閣下と、ご子息 Kyaw Zin Tun 様のお二人の仮比丘出家儀式が執り行われました。

最初に教戒師バツダントウ ニャーヌッタラ大長老のお導きで、浄心庵瞑想堂で仮見習出家儀式が執り行われました。



次に、新浄心庵戒壇へ移動し、仮比丘出家儀式が執り行われました。

親教師バツダントウ ケサラ大長老と教戒師バツダントウ ニャーヌッタラ大長老をはじめ16名の比丘サンガの尊いお導きを受け、仮見習出家の段階から仮比丘出家の段階に入ることができました。



お二人はこの日から4日間、比丘出家者として瞑想実践に専念され、その後還俗され、尊き法のお土産をもって、ご家族はミャンマー国へお帰りになされました。



## 6. 仮比丘出家の儀式

～ Dullabha Pabbajjita 「出家とは得難い」～

ニャーヌッタラ大長老ご説法

仮比丘出家をパーリ言葉で、Dullabha Pabbajjita といいます。

Dullabha は「得難い」、Pabbajjita は「出家」という意味です。

「出家とは得難い」ということです。在家の人が、出家を経験するために、期間を決めて、一時的に、出家の生活をするを、仮比丘出家といいます。セヤードーのような、常に、死ぬまで戒律を具えた比丘出家の生活は出来なくても、1週間とか、10日間とか、期間を決めて、出家の生活をする事も、三宝の縁、比丘サンガの縁になって、今世から来世へとつながる涅槃への大きな因縁になります。

ですから、人間に生まれ、三宝に出会うとき、男性在家信者は、仮見習出家、仮比丘出家になるべきだと、ミャンマー人たちは考えています。

11月4日には、元駐日大使 H.E.U Khin Maung Tin 大臣と、その息子 Kyaw Zin Tun 様の2名、そして11月18日には、在日ミャンマー人信者5名が、Sāsana Sirī Dhara Sīmā（お釈迦さまの教えが伝わるために品位を保つ浄心庵戒壇）において、仮比丘出家の儀式を行いました。

また、男性だけではなく、人間に生まれ、三宝に出会う時、在家女性信者たちも、比丘尼までは出来なくても、正学女や、テーラワダの尼僧を目指すことは出来ます。仮正学女や、仮尼僧になって、一週間や10日間、期間を決めて、出家者の生活を実践することが出来ます。

ミャンマー人は、男性在家信者も、女性在家信者も、このように、得難い出家者の生活を実践する習慣があります。

日本には、この習慣はまだありませんが、上座仏教修道会のみなさんは、希望すれば、仮見習出家や、仮正学女、仮尼僧などの経験をすることができます。

「比丘サンガ40日間のご活動（14の儀式）」についての報告は次号に引き続き掲載いたします。（次号へ続く）